YOMISAT ヨーロッパ

欧州国際版購読申し込み・問い合わせ先
OCSロンドン☎ 020-7640-3999 OCSフランス☎(01)4945-8105

欧州総局・ロンドン支局 ☎7353-6952
パリ支局 ☎4494-9494
ベルリン支局 ☎2045-2600
ブリュッセル支局☎285-0868
ジュネーブ支局 ☎733-5138
ローマ支局 ☎482-1835
モスクワ支局 ☎981-4110

モノクロで見る東北

ロンドン

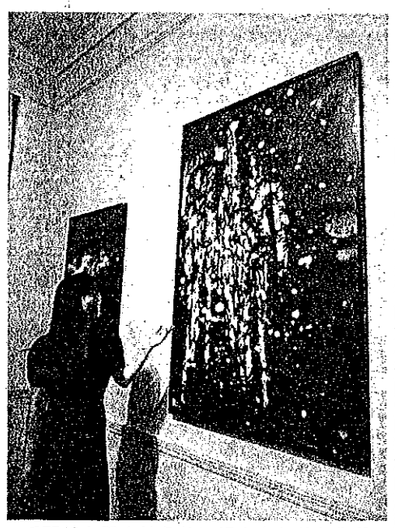
日本人女性が写真展

ロンドン在住のアーティスト、滝沢明子さん(40)が東北の人々や自分の家族を撮影した写真の展示会がロンドン市内で始まった。霊場として知られる青森県の恐山や五所川原市などを舞台にした作品は、現実と幻想が交錯している。（ロンドン 林路郎）

福岡市出身の滝沢さんはロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アート卒業後、英国最大の現代美術館テート・モダンに勤務しながら撮影活動を続けており、個展は今回が初めて。20年前に両親が山形県へ引っ越してから知るようになった恐山や五所川原に残る人々の信仰や独特の死生観に引きつけられ、度々足を運び、撮影してきたという。

展示されたのは、千羽鶴と雪を抽象的に組み合わせた作品「錯乱」など。多重露光を駆使したモノクロ作品が主体だ。19世紀半ばにフランスで生まれ、ほとんど見られなくなったコロタイプと呼ばれる技術を京都の美術印刷会社が提供し、印画した作品もある。祖母が暮らした海辺の古い家や東北の雪景色に両親のイメージを重ねた家族を題材とする作品群も展示している。

大和日英基金ジャパンハウスギャラリーで3月1日まで。2月16日にはテート・モダンの写真担当学芸員サイモン・ベーカー氏を招いてトークショーも開く。照会は☎020・7486・4348、またはwww.daj.org.ukへ。



千羽鶴と雪を抽象的に組み合わせた作品「錯乱」を前にする滝沢さん（林路郎撮影）

日本・イスラエル 合作劇

国交60周年記念 12月に両国で上演

【エルサレム＝井上亜希子】日本とイスラエルの俳優が共演し、両国が共同制作する演劇「トロイアの女たち」が今年12月、両国で上演される。演出家の蜷川幸雄氏も参画する。俳優オーディションのため1月中旬、イスラエルを訪れた蜷川氏は、「困難が渦巻く情勢の中で、間接的にでも演劇が、人々の希望につながれば」と意気込みを語った。

公演は、日本・イスラエル国交樹立60周年の記念事業。日本人俳優のほか、ユダヤ系、アラブ系イスラエル人の俳優を起用し、日本語、アラビア語、ヘブライ語の3か国語を使用して演じられる。

「トロイアの女たち」は、古代ギリシャの悲劇がモチーフ。ギリシャとの戦争に敗れたトロイの女性たちが捕虜として連れ去られていくという筋書き。劇は、12月に東京芸術劇場と、イスラエル中部テルアビブのカメリ劇場で上演される。

ビッグベン傾く

＊地盤沈下が原因

英議会が対策協議

【ロンドン＝林路郎】ロンドン名物・英国会議事堂の時計塔（ビッグベン、高さ96メートル）が地盤沈下の影響で北西方向へ傾いていることがわかり、下院委員会が、建物の補強工事など抜本対策についての協議を始めた。キャメロン政権が徹底した緊縮路線を採る中、基礎部分の補強など工事費は10億ポンド（約120億円）と見積もられている。

国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）の世界遺産にも登録されている議事堂は1870年に完成した。地下に下水道や地下鉄駅、駐車場などが整備されたこともあり徐々に地盤沈下が進行。ビッグベンの傾きも近年は肉眼で確認でき、昨年10月の議会報告書では塔の傾きは北西へ0・26度、先端は垂直線から43センチ外れていると明らかにされた。

「イタリアのピサの斜塔ほど傾くまでに4000年かかる」「倒壊までに1万年ある」など、英メディアや専門家は、冷静に反応している。「膨大な工事費を捻出するため中国やロシアの開発業者に議事堂を売却する案が浮上した」との報道も出たが、下院委員会スポークスマンは否定した。

◀ライトアップされたビッグベン（林路郎撮影）

英国 子育て事情

女子校のハウス制度

「強い女性」意識 育む

ライター・翻訳家 玉置百合子

♪あたしをなめるなぁ～あたしゃブーディカ～♪

娘(9)が大声でテレビ画面の俳優たちに合わせて熱唱している。番組はBBCの「ホリブル・ヒストリーズ」。子供向けに歴史を面白おかしくかみ砕いたもので、「ブーディカ」は西暦60年ごろの東イングランドの女王だ。テーマ曲が好きなのだろうが人物にも関心がありそうなので「ブーディカのどこがいいの？」と尋ねてみた。

「女性でローマ軍に反乱するなんて強くてかっこいいじゃない」と娘は言う。

学校の影響もあるのかと思った。娘は2010年から通っているこの女子校が性格に合っているらしい。同校には多くの私立校と同様に「ハウス」と呼ばれる制度があり、四つのハウスには偉大な英国人女性の名がそれぞれ付いている。

ハウス制度は英私立校の大きな特徴の一つ。新入生は異なる学年の生徒たちからなるハウスに振り分けられ、連帯意識を育てる。小説ハリー・ポッター・シリーズの主人公が通う全寮制の学校「ホグワーツ」にもハウスがあり、各ハウスには学校の創設者たちの名前が付いている。

娘のハウスの名は「ジョンソン」。女性として初めてポイントを最も多く稼いだハウスには学年末に優勝杯も贈られる。

各ハウスには「ハウス・キャプテン」と呼ばれる監督生がおり、最上級生から選ばれる。

19世紀の終わりごろ、手頃な学費で質の高い教育を女子に与える場がないことを問題視した当時の有識者たちが創立した学校だ。女子が大学へ進学し、職業を持つことが当たり前という校風を伝統として守ってきた。エスカレーター式ではあるが、お嬢様教育ではないところがいい。

将来の希望について娘は、ついこの間まで「建築家か天文学者になりたい」と言っていた。最近では「物語を書くのが好き」といい、ストラリアまで単独飛行を果たした飛行士エイミー・ジョンソンにちなんだ命名だ。ハウスのカラーはブルー。運動会ではブルーのTシャツを着て、別の色のTシャツを身につけた他のハウスの生徒たちとハウスのために競う。

スポーツだけではない。勉強や人助けをした時には「ハウス・ポイント」がもらえる。「歴史のエッセーでもらっちゃった！」など年生のお手伝いをしたからも皆にハウスポイント」などと言って娘は喜んでいる。

ポイントを与えるのは先生だが、成績とは別である。ポイントを最も多く稼いだハウスには学年末に優勝杯が贈られる。

常に将来の職業を意識しながら育っている。

英国は女性が強い時代に栄えると言われる。イングランドがアルマダの海戦に勝った当時のエリザベス一世（在位1558～1603）、大英帝国が築き上げられた時のビクトリア女王（同1837～1901）、さらにはサッチャー首相（在任1979～1990）、2月6日で在位60年を迎えるエリザベス2世女王らの名が思い当たる。

強い女性の見本に事欠かない英社会。しっかり者ぞろいのハウスの先輩・後輩に囲まれる娘。ブーディカのカラオケは多少耳障りでも、たくましく育つならそれでいいと思っている。

ヨーロッパ 気温・天気 (24・25日・AP) 気温は最高、最低

アムステルダム	晴	6	1	アテネ	雨	15	6	ベオグラード	雨	5	2	ブリュッセル	雨	5	0	ブダペスト	曇	5	0
コペンハーゲン	晴	0	-4	フランクフルト	雨	5	0	ジュネーブ	雨	6	2	ヘルシンキ	雪	6	-10				
リスボン	晴	15	6	マドリード	晴	16	0	ニース	曇	15	8	オスロ	雪	-6	-10	プラハ	雪	3	-2
ストックホルム	雪	-2	-5	ウィーン	雪	4	1	ワルシャワ	雪	0	-3	チューリヒ	雪	5	0				